

# JICAボランティア秋募集特別企画

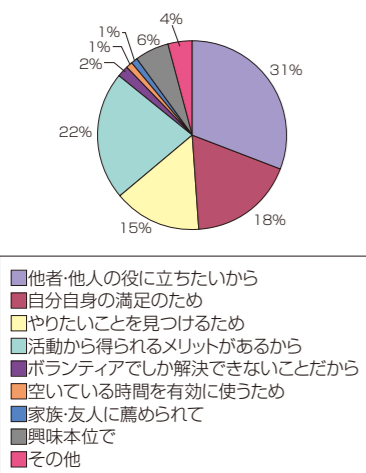
## ～イメージどおり?海外ボランティアはこう生きる!～

海外ボランティアに参加する人はどんな人?どんな思いで参加するの?参加後どうしているの…?

今回はそんな海外ボランティアの実態をご紹介します。



グラフ① ボランティア参加意向理由



募集説明会のアンケート集計より抜粋(H19 春募集時20～39歳対象)

### 《協力隊=井戸掘り!?》

協力隊OGと一緒に青年海外協力隊の活動体験報告をさせていただいたため訪れたある学校の教頭先生が、「体格のよい男の人よりも、こうして女性の話を聞くと、生徒もより身近に感じるでしょう」とおっしゃっていました。やはり、海外ボランティアというとまだまだ井戸掘りをイメージするのでしょうか。過酷で、特別な技術を持った方だけが参加できるものと思っている人が多いからこそ出た言葉なのでしょう。実際は、様々な方がボランティアに参加しています。決して屈強な男の人や特定の技術を持った方ばかりではありません。最近では女性の派遣実績が半数を超えていますし、職種は120種類以上。農業や医療の他、教育、スポーツなどの分野もあり、いろいろな経歴の方が参加しています。

### 《なぜ協力隊に参加したいと思うのか》

協力隊の参加者や募集の際の説明会参加者にその参加動機を聞いてみると、「自分を変えたい」「大きな成長となると思った」など自分自身を見つめる理由で参加を考える人がいます。(グラフ①参照) 普段出来ない経験を通して、自分の人生を見つめ直し、より成長したいという思いも参加への動機のひとつとなります。

### 《活動は日々試行錯誤!?》

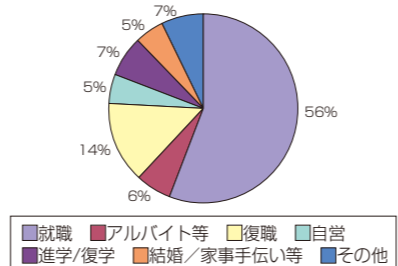
隊員が派遣された国で経験することは様々です。言葉の壁に悩み、自分の伝えたいことを伝えられないことにもどかしい思いをする人は少なくありません。文化や習慣の違いから誤解を受けたり、自分がやりたいと思っていることを受け入れてもらえなかったり…。そんな状況にも焦らず、諦めずに自分のできることを精一杯やることで、いつしか現地の人々に溶け込んでいくのです。

### 《帰国後の進路》

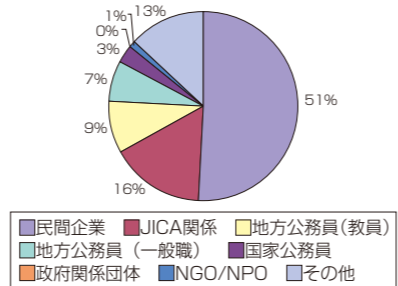
協力隊参加を考える人にとって、帰国後の自分の進路というのは不安であり、悩みの一つでしょう。中には、何とかなさ!と赴任していく人もいますが、それぞれに悩み、考え、自分の道を選択していきます。(グラフ②・③参照)

試行錯誤、悪戦苦闘を繰り返す活動のなかで、隊員が磨きをかけて帰ってくるのはコミュニケーション能力やマネジメント能力、語学力等々といわれています。そのような実践力を求める企業や自治体も増えており、例えば、協力隊経験者を対象とした教員採用特別制度を整えた自治体もあります。しかし、そのような特別制度があるからといって、「参加することに意義がある」ということではありません。現地での活動経験は旅行などで訪れただけでは経験できないことばかり。その経験を経て、何を得たのか、それをどう生かしたいのか…そうやって価値ある経験を自分のキャリアとして活かす道を決めていくのです。

グラフ② これまでの協力隊参加者の進路決定状況



グラフ③ 就職先内訳



### ●平成20年度JICAボランティア秋募集

応募期間 10月1日(水)～11月10日(月) 消印有効  
募集に合わせて北陸各地で体験談&説明会を行います。

詳しくはHPへ

JICA北陸

検索

## ●海外ボランティア from 北陸

### タイの子供たちに勉強を始めるきっかけを



木南 舞香(石川県出身/タイ/日本語教師)



中学1年生の授業風景  
折鶴の作り方を指導する木南さん

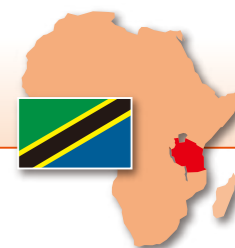
バンコクから約80キロ離れた中高一貫校で、日本語を教えています。私が通う学校は「田舎の三流校」と呼ばれています。市の外れにある小規模な学校で、離婚や死別などの家庭の問題を抱え、学費を払えずに退学する学生も少なくありません。勉強というより、毎日楽しく家族が健康に過ごすことが学生たちにとっては大事なようです。直接日本人と関わることが、将来あるわけでもなく、日本に行くこともない彼らにとって、日本語を学ぶことは何んだらうと日々考えています。日本語を学ぶ動機付けをされていないため、授業態度はというと、おしゃべり、次の日の学校イベントの準備(タイ人はイベントを大事にするので、こういうときにとっても真剣です)、そして睡眠です。そんな彼らですが、バンコクに駐在する日本人の方の家に1泊2日ホームステイをすることになりました。「動機」ができた彼らは、真剣な顔で会話練習、日本のマナーの学習(お箸の使い方など)、歌の練習、タイ文化紹介にがんばっています。特にクラスでもいちばん不真面目で学校にもあまり来ない学生が、一生懸命にkiroroの「bestfriend」を歌詞を見ないで歌っている姿には、目がじわーっとなりました。できないと思っている学生が「できる!」と思うようになることは、本当にうれしいことでした。たとえ日本語が上手にならなくても、真剣になったことで勉強しようというきっかけづくりができればいいなと思っています。いよいよ来週ということで私も学生も緊張した日々を過ごしています。



お箸の練習をする生徒

## ●教師海外研修 in タンザニア

### 北陸の教師が肌で感じたアフリカの大地



JICA北陸では、毎年教師の方を対象に海外研修を実施しています。

今年は7月30日から8月8日までの10日間、7名の先生方がアフリカの地タンザニアでの研修に参加しました。

### 教師海外研修のスケジュール

#### ●4月・5月

参加者募集  
選考・決定

#### ●6月 第1回国内事前研修

JICA事業の説明、タンザニア講座、海外研修  
内容希望把握、視聴覚教材を使用した授業方  
法の紹介等

#### ●7月 第2回国内事前研修

研修の視点の確認、過年度参加者からの実践報  
告・アドバイス、環境問題に関するワークショッ  
プ体験等

#### ●8月 タンザニア海外研修

研修に参加した先生方は現地の教育現場  
を訪れたほか、生活や文化に関係した場  
所も視察しました。保健のプログラムの  
一環としてHIV・AIDSプロジェクトにつ  
いても学びました。

#### ●主な訪問先:

- 訪問先の多数は、青年海外協力隊・専門家の活動先です。
- 教育/小学校・高等学校・司書学校  
知的障害児施設・孤児院・教育研究所
- 生活/魚市場・青果市場・民家
- 歴史・文化/歴史博物館・マコンデ村
- 国政等/地方自治庁・日本大使館・  
JICAタンザニア事務所



魚市場にて揚げたての小魚フライを試食

#### ●研修を終えて…

約1週間のポレポレ\*の世界は、「生き方」や「共に生きる地球人」などを新たな感覚でとらえる機会を与えてくれました。肌で感じた異国の風土やそこで活躍されるスタッフの皆さんとの交流は、貴重な体験となりました。応募前まではタンザニアについては全く知識がなかった私も、この研修を通じて親タンザニア家の一員になりました。(金沢市立弥生小学校 荒木佳子教諭) \*ポレポレ=ゆっくりと、ゆっくりとした

「国際支援」というと教師である私にとっても遠い国の敷居の高い存在でした。今回の研修を通じ、タンザニアの人々の温かさや協力隊員の皆さんの現地の人と共に悩み考える姿に触れることで「国際支援」を身近に感じることができました。「国際支援」とは、一方的に物資や資金を援助することではなく、共に悩み考える「人」と「人」とのつながりであることを、今後は日本の教育現場で生徒に伝えていきたいと思っています。(福井市森田中学校 森川禎彦教諭)



孤児院の子ども達と

#### ●9月～2月

海外研修の経験を活かして授業実践。この様子は次号にてご紹介いたします。お楽しみに!

#### ●研修員 in 北陸

### ～研修の現場から～「高齢者福祉におけるデイケアサービス(デイケアと介護予防)」



6月にバラグアイから4名の日系研修員がやって来ました。今回の研修はバラグアイの日系社会における高齢化対策を進めるために行われました。石川県立看護大学と羽咋市社会福祉協議会の協力のもと、地域で進める高齢者福祉について学び、8月末に行われた閉講式においてその成果を発表しました。太陽のように明るい皆さんは2ヶ月間の滞在で、地元羽咋の方々ともすっかり仲良くなったようです。今回の研修で、地域介護に関わり、人を支える立場として、実習や講義からだけでなく触れ合いを通して大切なことが学べたと思います。昨年、研修を受けて帰国した先輩研修員が中心となり、すでに地域での福祉活動は行われています。それをさらに良いものにするべく、研修員の皆さんの活躍が期待されています!

